

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成20年10月16日(2008.10.16)

【公開番号】特開2007-62099(P2007-62099A)

【公開日】平成19年3月15日(2007.3.15)

【年通号数】公開・登録公報2007-010

【出願番号】特願2005-249798(P2005-249798)

【国際特許分類】

B 4 1 J	2/44	(2006.01)
B 4 1 J	2/52	(2006.01)
H 0 4 N	1/113	(2006.01)
H 0 4 N	1/23	(2006.01)
H 0 4 N	1/405	(2006.01)

【F I】

B 4 1 J	3/00	M
B 4 1 J	3/00	A
H 0 4 N	1/04	1 0 4 Z
H 0 4 N	1/23	1 0 3 B
H 0 4 N	1/40	B

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月29日(2008.8.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

表面が第1の方向に駆動する潜像担持体と、振動する偏向ミラー面によって光源からの光を前記第1の方向とほぼ直交する第2の方向に走査可能に構成され、前記光を前記潜像担持体に照射して潜像を形成する潜像形成部と、前記潜像を現像する現像部とを備えた画像形成装置を用いて、

網点の形成に寄与する複数の画素からなるセルに対して、前記画素の現像の際に閾値マトリックスを用いて前記網点を形成することにより画像を形成する画像形成方法であって、

前記偏向ミラー面によって前記光を前記第2の方向及び前記第2の方向とは異なる方向の複数の方向に走査して前記潜像を形成し、

前記第1の方向に対し3以上で且つ奇数個の画素を有するセルが、前記第1の方向に隣接して配置されることを特徴とする画像形成方法。

【請求項2】

前記奇数個の画素を有するセルを前記第2の方向に隣接して複数配置する請求項1に記載の画像形成方法。

【請求項3】

前記第2の方向において前記奇数個の画素を有するセルが隣接して形成する複数の隣接位置のうち少なくとも1つ以上の特定隣接位置で隣接する前記奇数個の画素を有するセルを前記第1の方向に奇数画素の長さ分ずれるように配置する請求項2に記載の画像形成方法。

【請求項4】

前記特定隣接位置を前記隣接位置の所定個数毎に周期的に設ける請求項3に記載の画像形成方法。

【請求項5】

前記特定隣接位置で互いに隣接する前記奇数個の画素を有するセルを、前記第2の方向の上流側の前記奇数個の画素を有するセルに対して下流側の前記奇数個の画素を有するセルを前記第1の方向に奇数画素の長さ分ずれるように配置する請求項3または4に記載の画像形成方法。

【請求項6】

表面が第1の方向に駆動する潜像担持体と、振動する偏向ミラー面によって光源からの光を前記第1の方向とほぼ直交する第2の方向に走査可能に構成され、前記光を前記潜像担持体に照射して潜像を形成する潜像形成部と、前記潜像を現像する現像部とを備え、

網点の形成に寄与する複数の画素からなるセルに対して、前記画素の現像の際に閾値マトリックスを用いて前記網点を形成することにより画像を形成する手段とを備え、

前記偏向ミラー面によって前記光を前記第2の方向及び前記第2の方向とは異なる方向の複数の方向に走査して前記潜像を形成する手段と、

前記第1の方向に対し3以上で且つ奇数個の画素を有するセルを前記第1の方向に隣接して配置する手段とを備えることを特徴とする画像形成装置。